

経済トップセミナー始まる

大分大学経済学部創立 100 周年記念事業の柱の一つとして計画されている 5 回の経済トップセミナー。その第 1 回目、広瀬勝貞大分県知事の講演が 9 月 29 日に開催されました。

開催に当たっては、大分県内を中心に会員や経済 5 団体等に参加を呼びかけたほか、大分合同新聞に掲載された高見経済学部長と野々下 100 周年記念事業実行委員長のインタビュー記事で紹介され、また新聞広告を出すなど周知に努めた結果、FAX、メール、ホームページ経由で約 250 名の事前申し込みがありました。経済学部の学生や、当日受付の市民を加えて約 300 名が聴講されました。平日でお忙しい中ご参加いただいた皆様に感謝いたします。



会場では検温、手指消毒は勿論、場内の椅子は一つ置きに座るなど新型コロナウイルス感染防止策を徹底しました。

演題は「知の拠点大分大学と大分県の挑戦」。大学の役割として「教育」「研究」「社会の発展への貢献」を挙げ、“Center of the community”知の拠点としての大分大学への期待を語られました。人材供給の点で地域に貢献している実態を説明されたほか、少子高齢化が進む中で大分県が挑戦する様々な課題に大分大学が参画していることに触れ、これからも大分大学に対する期待は大きいと話されました。

最後に「この地上において大学ほど美しいものはない」というイギリスの詩人ジョン・メイスフィールドの言葉を紹介されました。“無知を憎む人々が、知ることに努め、真理を知っている人が、他の人々の目を開かせようと努力する場所が大学である”という意味だそうです。

我等が母校も“美しい大学“にならなければなりません。

